

# なな山だより

なな山緑地の会会報 第5号 2006・10

9月16日の朝、19名の子どもたちがなな山にやって来ました。

お隣の団地内にある桜ヶ丘第1保育園の園児たちです。前日からお泊り保育だった子どもたちが朝のお食事まえに散歩と自然観察を兼ねて集まりました。

元気いっぱいの子もたちは広場を走り回り、バッタを捕まえたり、刈草を集めた山を蹴りあったり、石垣に登って先生に注意されたりと大はしゃぎでした。

おイモの畑を見て、「掘ってみよう！」とせがむ子もいて、対応した高木会長、長尾さんも大変でした。

なな山緑地には子どもたちの歓声と笑顔が溢れて、愉しく爽やかな秋の朝のひと時でした。



10月8日、なな山緑地の由来を示す看板を設置しました。

これにはこの里山を前の持ち主の住崎さんが、多摩市に寄付された経緯などが記されています。里山を子どもたちの自然学習の場として次の世代に今と変わらぬ姿で残すことを条件とし、雑木林の植生を絶やさない活動を願っているという趣旨です。

多摩市と市民ボランティアの「なな山緑地の



## 和田緑地保全の森(なな山緑地)の紹介

この緑地は府中にお住まいでした「住崎義秋さん」が守ってこられた里山です。平成13年9月に他界され相続を受けた「住崎ツルさん」「住崎岩衛さん」「住崎衛さん」は、故人の意志を受け継いで、この緑を守っていくこと、多摩市に寄付されました。多摩市はご意志を汲み、市内に残る貴重な緑と考え、市民の皆様と管理していくこととしました。この里山を寄付するにあたり住崎岩衛さんがこう語っておられました。

「冬になると父が決まって農作業を休み、多摩の里山へでかけ、萌芽更新とクズ掃きを毎年繰り返して、雑木林を維持してきました。雑木は薪に、落葉は堆肥に、実家の営みは全て和田の山が源でした。今の農家は高齢化が進み、農業、化学肥料に頼り、農家の基本である「土づくり」は忘れ去られています。この里山は農家の知恵を生かした雑木林の管理を条件に寄付いたしました。寄付の基本は里山を次の世代に今と変わらぬ姿で残すことであり、人工的な公園とは全く異なる雑木林の植生を絶やさない活動を願っております。」

会」はこれからもこの貴重な緑を守っていく活動を続けてまいります。看板は2ヶ所の入り口脇に設置しました。上は掲示内容の概略です。





晩秋のなな山全景

### 鮮やかな実のなる木

秋になり、木々の緑が勢いを弱めると、森はにぎやかな色に包まれてきます。その彩りのポイントの一つは樹木の実でしょう。ドングリは茶色の渋さですが、色鮮やかな実を探してみましょう。森を見渡すと、青い実、赤い実が際立った対照を見せています。これらは、比較的背の低い樹木に見られます。目の高さですぐ



ムラサキシキブの実

までここには揃っています。

赤と対照的なのがこの森に多いムラサキシキブの紫の実でしょう。秋が深まるにつれ一層色鮮やかになります。

この仲間のヤブムラサキも緑地の尾根伝いに大変多く見られます。花も実も葉もやたら毛深く、葉をそっと撫でてみるとピロードのような手触りで、ムラサキシキブとは識別できます。実はやや大きいのですが、ガクが半分実を包んでいるため控えめな感じがします。



ウグイスカグラの実

樹木は子孫繁栄のため、いろいろな色や形の実をつけます。鳥や獣の手を借りたり、時には私たちも少しお手伝いをして視覚や味覚や触覚を楽しませてもらったり、お互いにより関わりを続けているのです。



ガマズミの実

に気づくのがガマズミ、葉が小型で細長いのがコバノガマズミです。いずれも5～6mm程の赤いつややかな実をまとめてつけています。横浜に住んでいた子供の頃はドドメと呼んでいました。房ごと手に持っていくつもの実を一度に口に入れ、甘ずっぱい、さっぱりとした果汁を味わって種を飛ばして楽しんで食べたものです。

秋も深まると足元にマンリョウ、ヤブコウジが鮮やかな朱色を見せてくれます。センリョウ、カラタチバナ、ツルコウジをくわえて、一両から万両



ゴズイの実

サワフタギは青い実をつけ、日に

当たると美しく輝きます。

また、晩秋に葉が落ちて目立つ実があります。はじけて種を見せて枯山を彩っています。その代表はマユミです。ピンク色の実が四つに割れ赤い種が顔を出し、たくさんの実をつけているので目立ちます。「なな山」に1本だけあります。もう一つはゴズイです。赤い実がはじけて黒い種を見せています。この時ばかりは、役立たずといわれるこの木が、その美しさを誇示するかのようで面目を保っています。

この他に、春早く花が咲き初夏には赤い実をつけるのがウグイスカグラ。甘い味で親しまれるこの実は貴重な山の味覚でしょう。

ヒメヒオウギズイセン アヤメ科 *Tritonia crocosmaeflora* Lemoine



7月中旬、なな山の東の谷、杉林の下にヒメヒオウギズイセンが咲いた(写真左)。ヤブミョウガが群生する中に咲いたためか、花は鮮やかな緋色ではなくオレンジ色をしている。この植物はヒオウギズイセンとヒメトウショウブの間にできた雑種でアヤメ科。花形はアヤメやショウブなどとは似ていないが、葉は剣形で平たくよく似ている。ヒオウギという名は葉の並び方が檜扇に似ていることに由来する。

今年5月、パリ郊外、ヴェルサイユにあるマリー・アントワネットの村里の農家(写真右上)で、茅葺屋根の背の部分に一列に並んで咲く紫のアイリス(アヤメ科/ジャーマンアイリスのようだ)を見つけた(写真右下 = 屋根の部分拡大)。ここはマリー・アントワネットが宮殿

のはずれに造った村で、10軒の農家、牧場、畑、池などがあり、乳搾りや農業のまねごとをして楽しんでいたそうだ。当時、王侯貴族の間では自分の村を所有することが流行っていたのだ。

建築家の藤森照信氏によると、茅葺屋根の背にアイリスを植え付ける造りはフランスのノルマンディー地方に広く分布する造りとのことで、藤森氏が訪れたマレ・ベルニエ村では、このような建物は現在でも40軒ほど残っているとのこと。しかしながら文献がなく、いつ頃から何の目的で始まったのか、由来がはっきりしない、その上、名前もないとのこと。

このような造りは、かつては日本でも全国的に見られたそうである。茅葺屋根の背の部分に茅を積み上げ、杉皮をかぶせた後に、土を盛り、その上にユリ、オモト、シダ、ショウブ、イチハツなど直立する花が植えられていたことが知られている。「芝棟(しばむね)」と呼ばれ、最も傷みやすい屋根の棟のほずれを植物の根で固めるということのようだ。また火災時の類焼を免れる意味合いもあるようだ。

アヤメやショウブの根茎は屋根の背に沿って横に這わせることができ、芝棟には効果的かもしれないが、根の力が強いかどうかは疑問。この造り、自然との共生そのものであり楽しい。先人の知恵が一杯詰まっていそうだ。



広げよう会員の和

リレー随筆(5)

4年間を振り返って

佐伯利夫



マドンナの戸谷さんより引き継いだ、山歩きとソフトボールの好きな佐伯です。

振り返れば、平成14年12月グリーン・ライブセンターに行き、初めてライブホールに入りました。受講者40名、講師10名位いたと思います。開会挨拶、講座説明、1年間の活動計画などがあり、次の回より、ライブセンター、多摩中央公園、一本杉公園、和田緑地、都立桜ヶ丘公園で学課、実習を1年間行い、その後、和田緑地に行くことになりました。

早いもので丸3年が過ぎました。名前も「なな山緑地」と付きました。会長の高木さんのもとの作業しています。この山は住崎さんの土地であったものを、緑地で残すために寄付して下さった山で、私たちがこの緑地を見守っていきたくと思っています。私は日曜日にはソフトボールをやっているの、月2回の活動には完全に出ることはできませんが、ソフトが午前中のときは、午後に出るようにしています。他には、家の周り(貝取山)の草刈、枝降ろしをアドプトの名で健康管理のためやっています。こんな私ですが、これからもよろしく願いいたします。

さて、次は、なな山のお隣に住んでいらっしゃる吉住さんにバトンタッチします。どうぞよろしく。



### 2006・7・23(日)くもり気温 27

梅雨がまだ明けそうにない。降り出しそうな曇り空。参加者 9人。待望のトイレが使えるようになっている。手洗いもあり、水が使える。電源もあり、いろいろ便利になったなあ(写真)。

「作業」広場の草刈。トイレの入り口に目隠しの囲いと簡単な屋根をつける。道具類にテプラで なな山 の名札を付ける。

「観察」緑地全体を巡回、草の生育が著しい。ヤマユリ、オオバギボウシは盛りを過ぎ、ヤブミヨウガ、アキノタムラソウが盛り。

「なな山だより」第4号が完成、配布しました。



### 2006・8・13(日)晴れ気温？暑い！

夏真っ盛り！植物が勢いづいています。参加者 8人。

「作業」畑の草取り(写真戸谷です)、苗木保護、側溝掃除、枯木伐倒(南斜面4本)、養生囲い周辺雑草手鎌刈り、板作り、堆肥切り返し。

「観察」咲いていた植物=タイワンホトギス、ヤブミヨウガ、ヌスビトハギ、アキノタムラソウ、ヒヨドリバナ、ヒヨドリジョウゴ、ガンクビソウ、ヤマホトギス。

蕾があった植物=クサギ。見た動物=ヘビ、タヌキ？(相田さんはそう言うけど)猫かも？2ヶ月ぶりに参加したら、山も広場も雰囲気随分変わっていて驚きました。そして、とてもくたびれました。暑さが...(>\_<)！無理せず元気に活動しましょう。



### 2006・8・27(日)くもり気温？涼し～い

参加者 11人。差し入れが沢山ある日でした。(アカジソジュース、タマネギ、炊き出しごはん)

「作業」広場、梅林、東斜面の草刈。シイタケのホダ木立て、皆で運びました(写真右)。林の奥の側溝の補修(馬場さんの独擅場)。

「観察」咲いていた花=イチヤクソウ(写真下)、サジガンクビソウ。

高木さんから特製「アカジソジュース」をいただきました。美味！住崎農園からタマネギの差し入れ、丸々太って美味しそう(\*^。^\*)。

住崎さんは朝6時から府中の防災訓練に参加してきたそうで、お昼は炊き出しご飯を持参。戸谷もご馳走になりましたがアルファ米なかなかイケます。災害前にぜひ、お試しあれ。



### 2006・9・10(日)晴れ気温 32 暑い！暑いっ！

今日はとても暑い。木陰と日向の温度差は大きく熱風が吹いている。

参加者 10人。今日も高木さんからアカジソジュースの差し入れ、疲労回復にバッチリ。長尾さんからお菓子の差し入れご馳走さまでした。

「作業」エコプラザから借りてきたチップパーの試運転。チップ敷き。山頂、住宅隣接地、道路沿い、東斜面の草刈。道路わき掃除。

「観察」西斜面にシュンランの実が出来ています。

チップパーは枝の太さの制限もあり、やや力不足。なな山には、もっとタフな機械が必要かも。残暑厳しきなか、久しぶりの青木さん、松本さんをはじめ皆さん！おつかれさまでした。



なな山だより 第5号  
発行  
発行責任者  
住所  
編集委員

平成 18 年 10 月 22 日発行  
なな山緑地の会  
高木直樹  
多摩市和田 1394 13  
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

#### 編集後記

「なな山だより」も、第5号になりました。秋のなな山緑地は爽やかな風が吹き抜けて、汗をかいた肌を心地よく冷やしてくれます。活動に良い季節になりました。皆様の参加お待ちしております。K